



神戸学園都市 ワイズメンズクラブ



THE Y'S MENS CLUB OF GAKUENNTOSHI
THE SERVICE CLUB TO THE YMCA

2023年1月（通巻343号）

- ・神戸学園都市クラブ会長：杉本隆人：「日々新たなり」 New reforms everyday
- ・国際会長：K. C. Samuel（インド）：
「フェロウシップとインパクトで次の100年へ」
Into the next 100 years with FELLOWSHIP & IMPACT
スローガン：「自己を超えて、変化を起こそう」 Beyond Self and Be The Change
- ・アジア太平洋地域会長：Shen Chi-Ming（台湾）：
「新しい時代とともに、エレガントに変化を」 Elegantly Change with New Era
スローガン：「今すぐ実行を」 Doing It Right Now
- ・西日本区理事：田上 正（熊本むさし）：
「原点を知り将来に生かす」 Know the Origin and utilize it in the future!
副題：「立ち上がれ、ワイズモットーと共に！」
- ・六甲部長：若林茂幸（宝塚）：
「困難なときにこそ YMCA と共に進もう」 Let's proceed with YMCA in difficult times

1月 第1例会（新年会）

日時：2023年1月19日（木）18:00～

場所：金龍閣

1月誕生者おめでとう！

・田辺征一（1月11日）

・内田京子メネット

（1月24日）

YMCA 青少年奉仕賞受賞

丹家元陽ワイズ

“おめでとうございます”

12月の出席状況

第一例会 7名

事務例会 7名

[役員] 会長：杉本隆人、直前会長：田辺征一、書記：内田邦彦、会計：中村 剛、連絡主事：櫻井英治
[委員] 地域奉仕・環境：森本哲男、Yサ・ユース：柴田昌一、交流：田辺征一、辻本邦子、ファンド：
丹家元陽、野呂隆、EMC：田辺征一、広報・ブリテン：田辺征一、メネット：合田洋子、
メール委員：杉本隆人

[西日本区役員] JWF 委員：杉本隆人

[IBC] 台湾高雄ポートクラブ（2004年1月締結）

[DBC] 東京武蔵野多摩クラブ（2011年6月締結）

[DBC] 岡山クラブ（2018年6月締結）

神戸学園都市クラブ 〒651-2102 神戸市西区学園東町2-1-3 TEL 078-793-7402、FAX 078-793-7470
第1例会：第3木曜日、事務例会：第1木曜日、

会 長 通 信

会長 杉本隆人

今期テーマ「日々新たなり」

新年明けまして、おめでとうございます。どうぞ、本年も宜しくお願い致します。

今期のテーマ「日々新たなり」を掲げておりますが、新しい年を迎えて気持ちも一新して、新たな気持ちで今年も奮起して前進していきたいと思っております。

阪神・淡路大震災が起こってから28年をむかえますが、早いように思えますが、遠い遠い昔の出来事のような！1月17日は、私にとっては忘れることができない日でもあります。

この日、私は東京へ挨拶回りのためにめずらしく5時半くらいに起床して準備していた矢先に地震が発生したのですが、ホンマにあんなに揺れた地震は初めてだったので、びっくりでした。揺れたというよりジャンプした後、強い揺れが長く続いたのを覚えています。

時間とともに被害が甚大であることがわかってからが、大変でした。

親族の安否確認が先ずはスタートし、水を確保するためにバスタブに水を満タンにし、散乱したものを片付けつつ、会社関係者と連絡し、車で会社に駆けつけて、大ショック！！事務所の内部はPC、書棚は倒れて書類は散乱、デスクはガタガタ、工場は機械類が倒れ、製品が散乱していたので一人で整理していると、一人、二人と同僚たちが駆けつけてくれてチームを作り復帰作業をスタートした日でもありました。

それが、28年の月日と共に現在無事に過ごせていることに感謝しつつ何をなすべきか、何ができるのかを追求していきたいと思っております。

感謝。

< 12月例会報告 >

日時：2022年12月15日（木）18:00～19:00

場所：西神戸YMCA学園都市

出席：内田、柴田、杉本、田辺、丹家、中村、野呂

クリスマスメッセージ「いと小さき者」

丹羽 和子 牧師（神戸ポートクラブ）

イエス・キリストが誕生したとされるベツレヘムはエルサレム近郊にある小さな村であり、古代イスラエルの王ダビデ誕生の地としても有名です。しかし、現在はイスラエル国のパレスチナ暫定地区にあり、ガザ地区と同様に塙で囲まれた閉塞状態にあります。

イエスはベツレヘムの洞くつで生まれ、馬屋のかいば桶に寝かされたと聖書に記されています。イエスは最も小さい者としてこの世に生まれました。現在の世界でも難民や不当な侵略で多くの人々が不当な迫害や攻撃により苦難の道を余儀なくされています。今年はそのような「小さくされた人々」のことを特に思う1年でした。

例会後は近くの店で会食。丹羽ワイズと共に1年の感謝を込めて打ち上げ会をしました。

（田辺征一）

< 1月事務例会報告 >

日時：2023年1月5日（木）18:00～19:15

場所：西神戸YMCA

出席：内田、櫻井、柴田、杉本、田辺、丹家、中村、野呂、森本

1. 報告事項

- (1) 理事通信1月号受信し、メール配信しました。
- (2) 神戸YMCA 日本語スピーチコンテスト協賛金要請を受信し、会計より5,000円の振り込みを依頼しました。
- (3) メネット委員会より協賛金 10,000円 振込依頼あり振込完了。
- (4) CS委員会開催 1月11日（水）18:00より神戸YMCAにて開催予定（森本ワイズ担当ですが代理出席OK）
- (5) 東西交流会申し込み確認 1月20日締め切り、柴田、田辺、杉本の以上3名が参加の予定、同時にマーシャル募集

- (6) 訃報 大阪クラブ 森本栄三ワイズ 昨年12月30日にご逝去、すでに告別式は、1月2日に終わられている。ご冥福をお祈りいたします。
- (7) 後期半年報・前期活動報告書・理事提案への提言を提出した。
- (8) 台湾でのアジア地区大会案内をしたが、参加希望者はなし。

2. 協議事項

- (1) 1月例会は、新年会 1月19日(木) 18:00~20:00 金龍閣(名谷)
会費 5,000円 参加者9名
- (2) 留学生支援活動については、1つの締めくくりとし、支援を終了する。
- (3) 2月例会 2023年2月16日(木) 18:00~20:00、公開例会とし3年ぶりにフルトアンダンテの演奏ライブを依頼してみる。
コロナ感染拡大対策上、412号室で、30名前後で行う予定とした。

3. YMCA報告

- (1) 六甲部から保育園(保育園、学童、東町創造)に絵本を送る贈呈式が1月28日に神戸YMCAにて行われる。

メンバーズコーナー

「1月になると思い出すこと」

1995年1月17日、この日から何をしていたか、事細かく覚えておられるでしょう、当時、独身で両親と高砂市に同居していました、揺れ、本棚が倒れるぐらいで、家屋が倒壊するようなことはありませんでした、テレビニュースでは神戸の震度は出ていませんでしたので、仕事に行こうといつものように朝食をとり最寄駅山陽電車高砂駅へ行ったものの不通、山電がダメならJRでと、タクシーで加古川駅まで行ったもののここも不通、携帯電話もスマホもなく、ラジオもなく、情報を何も持たないまま、加古川駅発明石方面の神姫バスに飛び乗って、まずはランチがあった明石を目指すことに、バスが発車して幹線道路に入ったもののノロノロ運転、魚住あたりで全く動かないようになり、電話を事務所にかけたい、トイレにいきたい、途中下車して交番でトイレを借り一息、当時ランチがあった明石駅前を目指して歩

きはじめました、公衆電話を見つけて事務所に電話をかけても呼び出し音は鳴っても誰も出ない、次の公衆電話でも誰も出ない、明石ランチに電話をかけても誰も出ない、頭の中は???ばかり。歩き始めてどれくらいだったのでしょうか、明石川をこえると、あれっ、建物にクラックが、あれっ、あっちもこっちも、あれあれあれ?事情がわからないまま明石ランチ着、シャッターがしまってます、明石駅前東方面行きのバスを探すも無し、タクシーには長蛇の列、タクシーの運転手さんの声が聞こえてきます、「板宿まで?あかんあかん、燃えとるんやで」。なんのこと?実家に電話をかけると「早よ帰ってこい!」、なんとなくえらいことになっているのを感じました、東に向かうのは諦めてタクシーで西の実家に戻ることになりました、タクシー車内のラジオから、京都の文化財に被害が出たもようとか、JRは復旧のメドがたっていないとか…、実家でテレビを見て呆然、朝のニュースで神戸の震度が出てなかったのは、震度計も壊れるほどだったからとその時に知りました、夜に上司の水野雄二さんに連絡が取れ、自宅待機・身の安全を命じられました、1995年1月、オーストラリアの大学生を受け入れて、神戸や西宮にホームステイをさせていました、ホストファミリー宅に連絡を取るべく自宅から電話をかけるも不通、公衆電話からなら繋がりやすいと聞き、小銭とテレホンカードを持って18日は近所の電話ボックスから安否確認、全員無事、ホストファミリー宅も被害無し、誰もパニックにならずで一安心、この大学生をどうするのか、岡山の学校が受け入れてくれることになり、希望者は19日に学園都市会館集合し、公用車で姫路駅、そこから新幹線に乗せ岡山に行かせました。私はどうやって19日に学園都市会館に行ったのか、思い出しました、高砂でスクーターを買い、朝早く学園都市を目指したのです、寒かった、あのスクーターどこいったんやろ。

(櫻井英治)

<編集後記>

“あけましておめでとうございます”
日本がそして世界が明るい希望の年に近づくことを望み祈ります。

あの日 1995年1月17日早朝、大きな揺れで目が覚めました。当時、私は鳥取に住んでいました。しばらくすると、神戸の板宿に住む社会人1年生の長女から電話があり「今大きな地震があり窓からは火の手が見える」と。朝のテレビニュースを見てビックリ！ 娘に電話するも、もう通じない。幸い、2日後に娘は無事鳥取に帰ることができました。



2023/1/1 明石海峡大橋から昇る日の出

聖書の小窓

「神様にまかせる」

「船はそれに巻き込まれ、風に逆らって進むことができなかったので、わたしたちは流されるにまかせた。」

使徒言行録 27章 15節

あけましておめでとうございます。今年もよろしくおねがいします。

仏教のお経に出てくる架空の鳥で「寒苦鳥」というものがあります。ヒマラヤに住んでいると言われています。この鳥の特徴は巣を造らないのです。ですから、ヒマラヤの寒い夜を、寒苦鳥の夫婦はお互い抱き合って震えて過ごすのです。そしていつも震えながら「明日は必ず巣を作ろう」と話し合います。ところが朝が来て太陽が昇ると暖かくなるのでそのことを忘れるのです。

しかも「人生いつ死ぬかわからない。巣を造るなんて無駄だ、すべては神様にお任せしよう」というのです。仏教では愚かなたとえのようですが、この寒苦鳥の夫婦の「すべては神様にお任せ」ということは感心します。しかし、やることはきちんとやって「おまかせ」でなければならないと思います。

今月の聖句は、パウロがローマは護送されるときに嵐に巻き込まれたところです。パウロの忠告を聞かなかった人々が遭遇した難破でした。そのような困難に出会ったときには「まかせる」しかないのです。この中で人々は「流れに任せる」だけでしたが、パウロだけは「神様に任せる」ことができました。

私たちのワイズ活動もやるだけやって「神にまかせる」でありたいと思います。

西日本区チャプレン 立野 泰博